

[令和4年度] 第2回 飯田市新文化会館整備検討委員会 会議録

会議名称	第2回 飯田市新文化会館整備検討委員会
開催日時	令和4年7月19日(火)午後7時～午後9時01分
開催場所	飯田文化会館 1階 展示室
出席委員(敬称略)	片桐啓、上沼俊彦、川崎好昭、塩澤哲夫、高松和子、田中悦雄、黒河内智子、賜正俊、飯島剛、小西盛登、小木曾俊夫、遠山あづみ、前澤正徳、小澤櫻作、佐々木宏幸、山元浩
欠席委員(敬称略)	桑原利彦、森本典子、原田雅弘
出席事務局職員	松下参与(教育次長事務取扱)、下井文化会館長、筒井補佐兼文化会館建設担当専門主査、木村事業係長、中島会計年度職員
会議の概要	1 開会 2 議事 (1) 前回の振り返り(配布資料No.1)、今後の進め方(配布資料No.2) (2) 意見交換(ワークショップ) 3 事務連絡 4 閉会

※公表の会議録(発言)には委員の氏名を掲載いたしません。

## 1 開 会

○委員長 皆さん、こんばんは。

定刻となりましたので、ただいまから第2回新文化会館整備検討委員会を開催いたします。

本日、原田委員と森本委員から欠席のご連絡がありましたのでご報告させていただきます。

あとお一人、桑原委員がちょっと遅刻するか欠席になるかちょっと分からないというふう  
に連絡をいただいております。

## 2 議 事

○委員長 それでは早速ですが議事に入ります。

### (1) 前回の振り返り・今後の進め方

○委員長 初めに(1)前回の振り返りと今後の進め方について、事務局から説明をいただきます。

お願いします。

○下井館長 皆さん、改めましてこんばんは。事務局の下井でございます。

まず、説明に入る前に今日の資料がおそろいかどうかちょっと確認したいと思いますが、

資料N o 1という閉じたもの、それから資料N o 2、1枚ものですね。それからワークショップの記入シート、それからアンケートシート、それから後でお配りした現在の飯田市文化会館の概要というものがあろうかと思えます。ご確認いただきたいというふうに思えます。

それでは、早速まず前回の振り返りということでお話をしていきます。資料N o 1でございます。第1回新文化会館の整備検討委員会ミニワークショップの振り返りということの資料をご覧くださいと思います。

まずもって前回は、本当に時間がない中で皆様方に意見を出していただいたということでありありがとうございました。それで、主な意見を拾ってそこに書き出しております。1ページ目の中段から下辺りにつきましては、できるだけ皆さんの言葉で書いてあります。それから1ページ目の上のほう、こちらのほうは20個のキーワードということで、皆様方からいただいた意見の中から拾い出してあります。

で、これの並べはそれほど意味があるものではございません。できるだけ似たようなものを集めつつ、並べてみたらこんな感じになったということでございます。

雲のようなコメントが入っておりますけど、「機能」、それから「概念」、それから「場」ということでそこに書いてございます。

まず、この中でちょっと自分的に気になったところというのを少しお話していきたいと思いますが、どういうふうに説明すればいいんですかね。2段目というふうに言えばいいんでしょうか、左のほうからまず「学ぶ場」ということがあります。それから一番右側いくと「誇り」という言葉が出てきます。

それから3段目にいきますと、「自立的な活動」ということですね。

それから4段目にいくと「活動する場」であり「地域の人が集まって創り出すところ」、これは結節点というような意味になるんでしょうか、人と人、それから外と内ということもあると思います。人的・面的なつながりということですね。

それからその次が「吸収し、継承し、発展させる」というふうに書いてありますが、これは時代と言いますか、ずっと年代で見っていくとこういうことになってくるのかなというふうに思います。あとは「市民が文化を創造する」とかいうこともございます。

で、1ページ目の下のほうで意見を拾っていききたいと思いますけれども、まず最初に「お客様の反応が素晴らしい」ということが入っております。これ後でまた出てきますけれども、これが飯田の文化であるというようなことのご意見をいただいています。

それから3つ目のポツになるんですかね「次世代の担い手が集まるキッカケである」ということです。それから「ひろば」それからこれ繰り返しますが「学ぶ」ということが出てきます。

それから下から2つ目ですけれども、「市民とプロと行政のコラボレーション」ということが出てきております。

次のページ、2ページにいきまして、これはあえてちょっと取り上げてみたいと思うの

が一番上のポツなんですけども、その中段から下ですね。「市民の豊かな暮らし、この街の発展に貢献しているなど思ってくれば、劇場に来ない人も認めてくれる」というこういう表現がございます。これにつきましては、将来と言いますか新しい文化会館のところにつながっていくのかなというふうに考えます。

それから5つ目のポツですかね、「いい観客をつくっていくこと」っていうことになっておりますが、これ先ほどお客様の反応が素晴らしいというふうなご意見いただきましたけれども、これはいい観客をつくっていくんだという、そういうことも含まれているというふうに思います。

次のポツが「舞台と観客のコミュニケーション」ということでございます。

あとはちょっと繰返しのような内容が多いものですからちょっと説明は省かせていただきますが、前回の第1回目のミニワークショップでいただいた意見をまとめたということでございます。

それから次の資料No2をちょっと説明をさせていただきます。

立ち位置と言いますか、今日の会議の立ち位置ということで後先になりましたけれども、これをちょっと説明しなければなりません、資料No2、1枚もののペラですけども、これをご覧いただきますと、上のほうから第1回のミニワークショップがございました。それから第2回目が今日でございます。「飯田の文化②」として「飯田文化会館が果たす役割」ということで今日ワークショップでお話をいただきたいと思いますと思っています。

次回、第3回ですけども、一応、9月22日ということで予定をされておりますけれども、この中で「基本理念」というのにだんだん形づくっていきたいと思っています。次回ですね。ですので、今日お話をいただいたものが、だんだん固まってくるなというふうに思っていますが、その「基本理念」のイメージですけども、「基本理念」というのが一番大事ななこの間も申し上げましたけれども思っております。ベースになるコンセプトというふうな言い方になるでしょうか。

それで、かみ砕いていくといろんな機能を持っているよっていうことで、ここでは5つほどの四角が囲ってございますけども、そういった副題を与えていくと、こんなようなイメージ、あくまでまだイメージでありますけれども、こんな形でまとめていけたらいいかなというふうに思っております。今日の立ち位置と言いますと、第2回のワークショップということでございます。

説明としては以上でございます。

○委員長 はい、ありがとうございました。

ただいま(1)について、振り返りと今日の立ち位置ということで説明がありました。

何かご質問等ありましたらご発言をいただきたいと思います。

発言される場合にはお手数ですが、挙手していただき、お名前をおっしゃってから着座のまま発言をいただくようお願いしたいと思います。

それからもう1つ、今冒頭で20のキーワードについて説明がありましたけれども、今の時点でどうしてもこの言葉をいれておいてほしいというご希望がありましたら、それも併せて発言をお願いしたいと思います。

何か質問、あるいはご意見ありますでしょうか。よろしいですか。

(発言する者なし)

○委員長 はい、ありがとうございました。

それでは、次に進めさせていただきます。

---

## (2) 意見交換（ワークショップ）

○委員長 それでは（2）の意見交換（ワークショップ）のほうへ進めさせていただきます。

全体のコーディネーターとして佐々木委員にお願いいたします。また、各班では、学識委員、または松下参与、下井館長が入っておりますので、適宜サポートをお願いいたします。また、学識委員の班には、事務局の方が記録委員として同席いたしますが、基本的には記録係なので、発言はしないものといたします。

それではもう1つ、先ほど下井館長から今後の進め方についての説明がありましたけれども、本日は基本理念を検討するために前回の飯田の文化に続いて、飯田文化会館が果たす役割について意見交換をしていただき、最後に班ごとで発表をしていただくようになります。

それではワークショップについて事務局から説明をお願いいたします。

○筒井補佐 それでは事務局の筒井からワークショップの進め方について説明をさせていただきます。

これからワークショップということで、残り9時までの時間ということでもありますけれども、進行のほうは各グループでお願いしたいと思っております。特に司会等は設けておりませんので、先ほど委員長からお話がありましたとおり、学識委員、または松下参与、下井館長が適宜進行のサポートをお願いできればと思っております。

まず、委員長さん、副委員長さんはテーブルのほうへついてご準備をしていただければと思いますので、よろしくをお願いいたします。

意見交換に入る前に、話題提供といたしまして、松下参与から飯田文化会館の歩みを少しだけお話をさせていただきます。皆さんで共有の認識としてこの文化会館の歩みを振り返っていただいて、その後にワークショップに入っていただきたいと思っております。10分程度、松下参与のほうからお願いしたいと思います。

○松下参与 それではこんばんは。事務局教育委員会の参与の松下でございます。本日もよろしくをお願いいたします。

私のほうからは、飯田文化会館のこれまでの歩みと、現時点での概要について簡単にご説明を申し上げたいと思います。しかしながら、くれぐれもあくまで今時点のお話ですので、特に今日、後段ではこれからいろんな可能性を含めてご意見をいただくということですので、

ここにとどまっているつもりも私どももないですし、むしろ今の殻を破って新しい可能性を開くような、そういった辺りでも後段のワークショップではご議論、意見をいろんな角度からお出しをいただければと思います。

資料については2つありますけれども、現在の飯田市の文化会館の概要という資料と、文化会館の歩みという資料の2つであります。

現在、これ今のところの基本方針としては、この文化会館については舞台芸術の鑑賞創造という軸と人形劇のまちづくり、この2つの柱を持ちながら運営をしていますけれども、その中でやはりその市民の皆さんが、多様な芸術文化と出会う場を提供するということと、市民の皆さんの主体的な文化創造活動の展開を支援をしていくということ、基本的な方針として運営をしています。

文化会館の概要ということですが、このところの前段で書いてありますけれども、文化会館のこれまでの歩みの中では、大きな転機がいくつかありました。これは歩みのほうの資料を見ていただきたいと思いますが、現在の飯田文化会館は今から50年前、ちょうど50年前の昭和47年、1972年ということですから、大阪で万国博覧会が行われた翌々年に、この年がちょうど市政の35周年という年だったものですから、ここを記念するような形で文化会館が建設がされたということです。

その後、ずっと設立、開館当初は、貸館事業を主として市民の皆さんの多様な活動ですとか、興行的な活動の場としてこの会館をご利用いただきましたけれども、大きな転機はこの平成1年、1989年に貸館から事業館へということで、この時点に単なるその貸館事業を行う館ではなくて、市民の皆さんと行政が協働しながら自主的な事業を展開をしていくという、そういう施設運営の方針に切り替わってきています。そのときにちょうどアフィニスが始まったり、人形劇フェスタもちょっと遅れますけれども、1999年から市民実行委員会方式で新しく生まれ変わってスタートしていくという。それと大きなところはこのオーケストラと友に音楽祭、これはアフィニスからつながる音楽祭ですが、こういったものもこの文化会館を拠点に、市民の皆さんと行政の協働による実行委員会方式によって今までずっと経年、企画実施がされてきています。

あと元の文化会館の概要の資料に戻っていただいて、細かなところはここに記載のとおりですが、一番下の運営形態のところ、これも多くの全国的には指定管理者制度を導入して運営をしていますけれども、この飯田市の文化会館については飯田市による直営方式によって、しかしながら先ほど申し上げたとおり実施事業については市民実行委員会方式で市民、行政の協働によって企画実施をしているという、そういう大きな特徴を持っています。

3の利用状況のところは、これはコロナ禍で若干令和2年・3年は影響を受けていますけれども、経年は大体平成30年度の14万1千強の皆さんがこの施設をご利用いただいているということです。

ただ、ちょっと課題として1つご説明しておきますけれども、2月に市民アンケートをとり

ました。その中でこの文化会館を全く利用いただいてない方が市民の皆さんの6割おいでになるという実態がこの調査の中では浮き彫りになってますので、ここら辺、4割の方は何らから利用いただいていますけれども、6割の方はここに足を運んでいただいてないというような、そういう実態もあります。

続いて、4の利用団体のところですが、これは令和3年度ということで、特に文化団体、34の文化団体の皆さんがここを拠点に日々の練習や発表活動をしていただく拠点として活用いただいているということ。また、先ほど来申し上げた事業の実行委員会、市民実行委員会の予算、9つありますけれども、文化会館の自主事業的な色彩も強く持ちながら協働的に企画実施をしていただいているということ。あと、小中学校や高校、学校の吹奏楽を中心とした利用っていうのをかなりあるという、そういう拠点にもなっているということが現在の文化会館の特徴であります。

続いて2ページのところへいきますと、ここはホールの利用状況ということで円グラフにしております。ちょっとカラーでなかったのが読み取っていただきにくいんですけども、吹奏楽から邦楽まで、これが音楽ジャンルで62%ということで、ホールの年間稼働のうちの62%は音楽系の利用をいただいているということで、その中でも吹奏楽、これはその中学校、高校、これは下伊那郡も一部含まれますけれども、そういう形でご利用いただいているケースも多いということです。

そのほかには合唱・コーラス、管弦楽、またピアノ発表会もここには出てませんが、人形劇場はピアノ発表会の開催頻度が極めて高いものですから、一体的に見るとこの発表会も頻度高く行われているということです。

続いて、ダンス、バレエから・・・入っていませんけれども、ミュージカルまでが一応、舞台演劇というふうに区分してはありますが、ここについて14%という形で利用をいただいております。

それと大きな特徴は次の人形劇ですが、ここは実施事業やその他の公演を含めて13%利用をいただいているという形になります。あと、講演・セミナー・大会、これを合わせて10%ですが、いろんな組織の総会ですとか大会、集会、またセミナー、著名な方を呼んだセミナーや企業研修みたいな形でもこのホールを使っているというような状況であります。

続いて、3ページですが、特に先ほど転機になった平成元年から貸館から利用館へということで、その流れの中で今時点で文化会館の自主共催事業をつづつたのを年間ここに記載してあります。

コロナ禍は、若干できなかったものが多いものですから、平常年だった平成30年度ということで若干古いですが、この年度が一番トータルでは見ていただきやすいということであえてこの年度のものを掲載してあります。これもちょっとカラーではないんで見ていただきにくいですが、薄いグレーが音楽系、濃いグレーが人形劇系というようなこと

で整理をしてありますけども、自主事業の中でもやはりこの音楽系と人形劇系が多いという、そういう特徴があります。

それと象徴的なものとして4ページの伊那谷文化芸術祭ですけれども、これについては年間の一番大きな事業ということで、この30年度には12ジャンルで72団体の皆さんがここにある4日間にわたって発表を繰り広げられて市民の皆さんも鑑賞されるというのが、これはずっと初回が1986年ですけれども、ここから伊那谷文化芸術祭ということですからずっと会を重ねて毎年実施をしている。これシンボリックな事業として位置付けています。

以上、あまり説明をいろいろしますと固定概念をつくってしまいますので、今の文化会館、これまでの歩みと現状どんなふうかっていうところで簡単にご説明をさせていただきましたので、これからのワークショップの中での1つの参考にしていただければと思います。

くれぐれもここにとどまっていたくということではないので、ぜひいろんな様々なアイデアや発想をいただければと思います。

以上であります。

○筒井補佐 ありがとうございます。

それではこれからワークショップに移らせていただきますけれども、まずグループに分かれていただいておりますので、前回もやっていただいたかもしれませんけれども、アイスブレイクとして自己紹介をしながら一言ずつ発言をお願いしたいと思います。

そのやり方といたしましては、ご提案なので各グループでそれぞれ決めていただければと思いますが、前回のミニワークショップで出されたキーワード20個ということで用意してありまして、壁にも貼ってございますので、その中の1つを選んで、飯田の文化と丸丸ということでご発言をいただければと思います。

その後、意見交換をお願いしたいと思います。1週目は導入といたしまして、「飯田文化会館が果たしてきた役割」というこの果たしてきた役割をテーマに自由に意見交換をしていただければと思います。

本日の本題といたしましては、「新しい文化会館が果たす役割」についてお話いただきたいと思いますので、その本題のほうにその後テーマを移っていただければと思っております。

最後に班ごとに発表をお願いいたしますので、途中の段階で発表者を決めていただいて、どんな内容を発表するかもグループの中でお話し合いをしていただければと思います。

前回と同様に「意見交換シート」というものを用意してございます。また、付箋、ラッシュンペン、白い紙も用意してございますので、適宜使いやすいものを使っていただければと思います。

最後に、今回のワークショップでお願いしたい3つのルールということをお伝えしたいと思います。そこに紙も用意してございますけれども、1つ目といたしましては、それぞれ委員の皆さんのそれぞれの方の意見を尊重していただきたいということで、ご自分と違う意見ということが出るとは思いますけれども、否定せずに、また意見も統一する必要はございませ

るので、それぞれの意見を尊重していただきたいということが1点目。

2点目ですけれども、なるべく簡潔にお話をいただいて多くの意見を交換していただくために、1回の発言では1つのことを手短かにお願いして、皆さんが何度も発言できるようにお願いしたいと思います。

最後に3つ目ですが、発言は自由にとということで、所属それぞれ団体の代表ということを出てきてはいただいておりますけれども、ぜひ個人としての意見も自由にご意見を述べていただければということで、以上3つのルールを心がけて楽しくワークショップをお願いできればと思います。

今日のワークショップでは、前回の「飯田の文化」ということで出されたキーワードを基に、これまで果たしてきた役割、さらにこれから果たす役割、期待される役割っていうことを共有するということが目的となります。

前段で館長が申しましたけれども、次回の第3回で出された意見を整理して、基本理念の検討を行っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

事務局からは以上ですけれども、全体の進行をお願いします〇〇学識委員から何か注意点、補足があればお願いいたします。

〇学識委員 〇〇でございます。

全体のファシリテートということなんですけれども、既にまとめていただいた第1回の20のキーワードを見てもかなり前回のラウンドテーブルディスカッションで活発な意見交換がされ、その成果というものが大変分かりやすくまとめられているというふうに思いました。

今回の第2回というのは、第3回の基本理念を共有するということに向けて、非常に重要な意見交換であるというふうに思っております。

今回はもう皆さん共通の感想として時間が足りないというのがあったかと思えます。今、スケジュールを拝見しておりますと、20時半から25分間で発表ということなので、今日は1時間、それでも足りないというご意見もあるかもしれませんが、各グループ4人ぐらいのグループに分かれていただいて、1時間、活発な意見交換をしていただいて、ぜひ次回の新しい文化会館の基本理念というのにつながる共通の認識というようなものが、今日の意見交換で築かれればいいなというふうに思っております。

せっかく時間をたくさんとっているのに私がここでしゃべり過ぎてしまいますと元も子もなくなってしまいますので、私からは以上ということで。

〇筒井補佐 それでは、早速各テーブル班ごとに進行の方をお願いいたします。

(ワークショップ実施)

〇筒井補佐 お時間になりますので、これから各グループで発表をお願いしたいと思いますので、



よろしくお願いいたします。

1班から発表をしていただきますので、よろしくお願いいたします。

○1班委員 1班です。

1班は、割と「広場」っていうところがキーワードに始まってっただけですけども、「今までの文化会館ってどうだったかな」っていう話をしたときに、「割と孤立してたんじゃないか」とか、「単独の施設だったなあ」っていう話が出たんです。じゃあこれからどうっていつて考えていくと、点から面へ、それから点がこうリンクしていくようなものになっていくといいな。

それから「複合施設」っていうキーワードがあったんですが、ジャンルを超えたもの、スポーツと文化とか、いわゆる舞台芸術とはまた違うジャンル、「それぞれのジャンルを越えたような何か面ができるといいんじゃないか」っていうのがありました。

「やっぱり周辺のものとの、周辺との結びつきっていうのも大事じゃないか」という。「大体、立地としてどんな、ハードとしてこんなのがいいんじゃないかな」っていうのが出てきました。

一方で、「じゃあこれからどんな役割を担っていくのかなっていうと、その感性を磨くですとか、感動を与える、それから心を豊かにするとか、生きる喜びって、やっぱりワクワク、文化というものはそういうものを育むっていう役割があるんじゃないか」という話が出てきました。

最近のキーワードとして、「多様性」、これからは多様性の時代である。それからいろんな物差しがあってもいいんじゃないか。これまでは競争社会でしたりとか単一の物差しで割と測られてきましたけども、これからはいろんな物差しがあっていい。そういうものをつくり出していくといいんじゃないか。その中のキーワードとしてこれまでの伝統というものと、それから例えば高校生たちとかがつくっていく新しい文化というものをどうしていくかなっていうふうに話し合いました。

最終的に、その2つをつなげていくと、日常的な何かものになっていくといいんじゃないか。これまでは特別な場所、孤立した特別な場所であったんですけども、それをもうちょっと日常に寄せた施設とか機能ができてくるといいんじゃないかと。で、最近できたムトスぶらぎ、ここに高校生たちが今、集まって彼らの日常をつくっているんですけども、それが1つとして参考になるんじゃないか。そのムトスぶらぎと同じっていうものではないんですけど、じゃあここを参考にして、こことはまた別に文化会館はどうやっていくのかなっていうのを、今、練っているところです。

以上です。

(拍手)

○筒井補佐 ありがとうございます。

続いて、2班お願いいたします。

○2班委員 それでは2班の発表をさせていただきます。

ちょっと雑談的に始まりまして、今までの文化会館の支援、要するにソフト面とそれからハードの面、これは今までどおりがいいのかなということ。それから会館は、いろんなジャンルの方が寄りやすい場所ということで、昔はロックバンドであるとか太鼓ですとかヒップホップとか、あまり近寄り難かった場所というかジャンルがあるわけです。そういう方たちも全部巻き込んでいろんな方が練習できる場所であり、それからちょっと会館にお茶しに行こうかなっていうくらいの気楽に立ち寄れる場所。庭には例えば彫刻があったり、花が植えてあったり、すごく憩いの場になるようなそんなスポットになればいいのかなという。これはどういう形になるか分かりませんが、それからいろんな方がいつも寄れる場所というんですかね、とっつきづらくてコンクリートの塊じゃなくて、もっと身近に近寄れる、そんな場所づくりがいいのかなと。

以上でございます。

(拍手)

○筒井補佐 ありがとうございます。

続いて、3班お願いいたします。

○3班委員 はじめに果たしてきた役割の中で、文化会館の歴史というところからちょっと入りました。そして、文化会館の歴史の初めの頃は、いろんなジャンルの方々やいろんな文化がすごく豊富にいろいろ催しがとり行われた中で、少しずつ変化をしていって今に至っている中で、昔のその飯田文化会館の施設自体が、周辺の飯田市以外の地域のほうでなかなか飯田市ほどの文化会館がなかったからこそ飯田文化会館にいろんな方々を呼んで、いろんな人たちが集まる場所であった。それが少しずつ今、変化をしているってところで、じゃあ今後どのように果たす役割があるんだろうというところで、ちょうどこの3グループには幼児教育の携わる方々の場所でしたので、やはりまずは子供たち、子供たちこれから先、未来へ向かってつながっていくのは子供たちだろうというところで、子供たちが世代を越えた高齢者の方も含めて、人と人との出会いをできる、そして好きにいろいろなところを見て好きになれるところを、きっかけをつくっていく、そんなことができる文化会館になっていくといいんじゃないかっていうところで、先ほど1グループの方がちょっと言ってたんですけど、こちらでも「公民館とその文化会館というところのつながりがちょっと薄いんじゃないかっていうことで、より深めていきながら、そして地域ぐるみにつながっていくと、よりいい文化会館につながっていくんじゃないかな」っていう話が出ました。

ちょっと補足をまたさせていただきます。

○3班委員 発表は2人でやることになりましたので、補足という形で少し話させていただきます。

前回の会で印象に残ったキーワードはいくつかあったんですが、今日の話につながるものとしては、「吸収し、継承し、発展させる力」っていう言葉をまず置いて、じゃあ誰にどうい

うふうに吸収、継承、発展させるのかっていうところで、「子供たち」というキーワードが真っ先に出てきました。

で、じゃあ子供たちは文化会館で今までそんなにここを使ってってということが場所的にはなかったと思いますが、文化会館の活動の中では人形劇の巡回公演とかそういうことでやってきたわけですけども、「それをもっと進化させていく必要があるのかな」という話し合いになりました。

そんな中で、いろいろ広がっていったんですけども、子供たちこれから大人も含めてですが、「舞台芸術を見たり触れたりお互いに学び合うことでコミュニケーションの力、表現する力っていうのを市民の間につくれたらいいかな、そういう機能を持つ文化会館になったらどうかな」というようなご意見もありました。

そんなことで、いろいろこれから今までやってきたことに加えていかなければならない機能はいろいろあるのだろうなというような感想を持ちながら話し合いを終えたところですけども、そんなまともりませんが、そんなところで3班の発表とさせていただきます。

ありがとうございます。

(拍手)

○筒井補佐 ありがとうございます。

続いて、4班お願いいたします。

○4班委員 4班のほうから報告をさせていただきますが、まずは果たしてきた役割を話をする中で、「利用者主体の運営、施設運営をしてもらえたら」という話がありまして、「市民の活動の発表の場であって、文化会館で発表することは誇りになり自信になるっていう、そういうところであった」という話もありました。

それから、行政の職員の皆さんが市民を支えてくれているそういう場所だということで、直営の施設運営っていうところ、市の職員の皆さんが運営に関わっていただいているっていうところが、先ほどの利用者を言い方とすると「守ってくれる、そんな施設だった」というような意見が出ました。

そういう中で、これから果たす役割は、そういったことをぜひ引き継いでもらいたいという思いの中で、1つは市民活動の発表の場である。やっぱり文化会館で発表することが自信につながるし、レベルアップにもつながっていく、そういう場所になってほしいということ。それから文化会館で発表することが、自分を奮い立たせるそういう場所にもなる。そういう施設であったほしいということが1つあります。

それから、プロの劇団、こういった方たちの話として、例えばっていう話で「劇団四季みたいな公演があるといいよね」という話があったんですけども、「そういうプロの劇団の発表をここで観ることによって、刺激を大いに受ける、そういうところにつながるんじゃないか。プロの劇団を観劇するに首都圏へ行かなくてもこの地元で触れられる、そういう場所になってもらえるといいのかなあ」という話がありまして、関連して「そういった施設整備

をしていく中で、これからリニアの時代に合わせて、どんな施設整備をしていくのかっていうことも考えたほうがいいんじゃないのかなあ」というお話がありました。観に行くのか、向こうから来てもらうのか、そういう施設利用も考えたらどうかなっていうことでございます。

関連して、「飯田の文化会館とは言いますが、南信州エリア、飯田下伊那全体を捉えた文化活動の発表の場になる、そういう施設であってほしいなあ」という意見もありました。「若い人たちが参加できるそういう施設であってほしい」というところもありました。

それから「いろんなジャンルに合わせて支援をしてもらえる文化会館であってほしいな」、そんな話もされました。

それから先ほどの今までの文化会館の果たしてきた役割の中にあった「市民活動を守ってくれる施設で、やはり職員体制であってほしいな」ということでございます。「そのことで誰もが利用しやすい施設になるんじゃないのかな」というお話をいただいたところがございます。

まだいっぱいいろいろお話をいただきましたけども、以上かいつまんで報告をさせていただきます。よろしくお願いします。

(拍手)

○筒井補佐 ありがとうございます。

それでは最後、5班お願いをいたします。

○5班委員 5班の発表をさせていただきます。多分ここで言っても見えないと思うんで、ちょっと私が見えなくなった。

新しい文化会館を考えるときに、箱物について考えるのか、文化事業について考えるのかというようなところで、「一体で考える必要があるね」という話で、その中で「飯田の文化会館の特徴的な自主事業というのがあるんで、これを拡充していくか」っていう話にもちょっと出たんですけども、「いや、そうじゃなくてやっぱり貸館も重要で、経済的にやっぱりあっていくのが貸館事業であるんで、このバランスが必要だね」というようなお話がありました。

で、その委員の中にちょうど松本で舞台芸術に関わっている〇〇さんがいらっしゃったんで、お聞きしたところ、「松本では5割、50%、半々が自主事業と貸館事業であるということを見ると、やっぱり採算性を考えるとそういったことを考えていかなくちゃならないでしょう」というような話。

それから、「やはりリニア開通後と開通前では、やっぱり文化会館のあり方も変わってくるでしょう」というような話が出て、そういう中でリニアが開くと大都市圏へ行って文化事業をそっちへいけばいいんじゃないっていうようなことになる人たちもいるだろうし、じゃあ飯田はそんな中でどんな文化会館を必要とするのかっていうと、やはりそこでの独自性を持った事業をしていかないと、外から人は呼んでこれないだろうというところで、「そん

な観点で事業もやっていく必要があるんでしょ」というような話がありました。

それから館のそのサイズについてなんですけども、「それとやっている事業でいうと松本と比べると飯田はやはりちょっと偏りがあるように見えます」というような話で、「舞台芸術をやろうとすると、やはりサイズ的には小さいということでペイするかどうか、ホールとしては 1,800 くらいまでなホールがほしいよね」、「それと同時にやはり中程度の 600 から 700 人っていうような小ホールもあるといいね」という話。「公民館が現在なくなっている状況からすると、そんな 2 つのタイプのものがあってもいいんじゃないか」というところです。

それと、「今後の運営は、本当に飯田市だけでやっていくのか」というところです。「職員がどんどん替わっていく中で舞台芸術を支えるような人たちを育てていくっていうのはなかなか大変なんで、財団形式で固定化していく人間を育てていくというようなことも必要んじゃないか」という、「そう意味では人を育てるっていう機能も地域でそういった舞台芸術の人を育てるといったところが重要でしょう」と。

それと同時に、「やはりそれだけの館を運営していくためにはキーパーソンが必要んじゃないか」ということで「プロデューサー的な人がやはり必要になってくるかもしれない。そうなってくると、その市の独自運営なのか、指定管理なのかっていうところをもう一度考えてみる必要が出てくるのかな」というところです。そんなところですかね。

あとは金銭的な「さっきの財団方式なのか自主運営なのか」というようなところの話が出ました。ちょっとまとまりませんが、そんなような話をさせていただきました。

以上です。

(拍手)

○筒井補佐 ありがとうございます。

それぞれの各班から非常に多様なご意見をいただいて、次回のところにつながってくるかなあというふうに思います。

それでは、本日、各班に入っていただきました 3 人の学識委員の皆様からコメントをそれぞれいただきたいと思いますので、〇〇委員さんからすみません、まずはコメントをお願いしたいと思います。

○学識委員 初回、欠席しました〇〇でございます。改めてよろしくお願ひいたします。

それぞれの班の皆さんの発表を聞いて、私は今日、この 2 班でちょっとお話をさせてもらったんですけど、1 時間の間に出てきたキーワードというか、とってもいっぱい幅広いものがありました。

で、皆さんのお話を聞いていると、大体大枠でいけば同じようなことを多分それぞれでお話されたのかなと。その中でより細かくお話されたんじゃないかというふうにはちょっと思いましたけれども、やっぱり夢を今は役割っていうことで今日はお話ありましたが、多分今日、皆さんの理想、夢を語られた案だと思うんですね。幅広い利用であったりとか、幅広いジャンルであったりとか、気軽に立ち寄れるとか、いろんな意見出てきました。市民

参加のこういう事業ができるのはやっぱり直営だからこそだという、そういうことを続けるというようなことも多分いろんなところでもお話あったと思います。

本当にこれは飯田のこれまでの文化の形だと思うんですけども、何よりも私驚いたのが、この1時間の間、本当に皆さん熱心にお話をされる。これはほかのエリアでは多分こういう会議、熱の入った会議ってないと思います。同じようにワークショップをやってもみんな黙ってらっしゃることのほうが多いんですね。それに本当に驚きました。

でも、こういう飯田の市民の皆さんの熱意があるからこそ、これまでも飯田文化会館を50年続いてきたわけですし、やっぱりそういう事業も続いてきたんだというふうにも思っています。

我々も外から来て、この飯田の市民の皆さんの熱い思いを受けて、次第に飯田を心のふるさとというか、そういうふうになるようになってきているんですけども、それがまたいい形でこの会がどんどんいろんな話が出てきて、より良い施設の建設につながっていけばいいなというふうに思っております。

以上でございます。

(拍手)

○筒井補佐 ありがとうございます。

続きまして、○○学識委員さんお願いいたします。

○学識委員 どうも皆様ありがとうございました。○○です。

前回から参加させていただきましたが、前回よりもかなりいっぱいしゃべれたなというふうに思っております。このような機会をいただきまして本当にありがとうございます。

私たちのグループでは、ご説明あったとおりの歴史のところから入っていきまして。その中からいろいろなこととお話をし、子供たちとかいうような視点にどんどん入っていったんですけども、そこにたどり着くまでいろんなキーワードを前回の資料から見させていただいて、本当に私たちのテーブルはそこに集中してお話してしまったんですけど、多分皆さんいろんな意見やいろんな視点が出てくるということは信じて集中してお話をしていました。

って言いますのが、この本当に山元さんがおっしゃるとおり、飯田文化会館さんというのは、本当に市民の方と本当にこの50年間一緒にホールをつくってきた街の皆さんなんだというのを実感させていただくほど、本当に熱心な皆さんが多くてそれぞれのご経験の中からどんどんどんどん熱心なお話があったかと思えます。そのことが今度、新しい劇場のポテンシャルって新しいまだ潜在的なポテンシャルがどんどんどんどん開いていくきっかけになるのではないかなと。もちろん今までの強みというのを生かしつつ、新しいポテンシャルが開いていくきっかけになるのではないかなというのを今日、実感いたしました。

これから次回に向けて時間があるようであれば一気に進んでいきますか、これからどうぞよろしくをお願いいたします。

(拍手)

○筒井補佐 ありがとうございます。

続きまして、〇〇学識委員さんお願いいたします。

○学識委員 〇〇でございます。

皆様お疲れ様でした。議論する前に「今日は1時間たっぷり時間がある」と申し上げたんですけれども、おそらくそれでも足りなかったというふうに思ってる皆さんが多いのではないかという風に思います。

ワークショップ参加させていただいて、ファシリテートをやらせていただくこともあるんですけれども、これほど発言がどんどん出てきて、ある意味苦勞しないファシリテートというのも飯田ならではのなというふうに思って参加させていただきました。

で、今日のお話を聞いていて、私が皆さんの発表を聞いて思ったのは、ローカルな視点とリージョナルな視点というのをそれぞれのグループで、ローカル中心の視点で話されていたところもあると思いますし、リージョナルという、もう少し広域ですね、で話されていたところもあるのかなというふうに感じました。

で、ローカルな視点に関しましては、近寄りやすい場所であるとか、人と人との出会いであるとか、何か市民活動であるとか、それが日常性のようなもの。要は、その非常に地域に根ざした日常的な場っていう概念、敷居が低いイメージというのは、皆さんの発表を聞いてあるのかなというふうに思いました。

で、その一方で、リージョナルなほうにいきますと、やはり皆さんリニアができたときに飯田の新文化会館というのがどのような位置づけになるのかということはかなり話されていて、実際、文化会館に今まで関わってきた皆さんからはかなり具体的に自主事業としてやっていく部分と、貸館としてやっていく部分がどうかというようなことまで含めて、そこで出てきているのは「独自性」という言葉が1つ発表の中であったのかなというふうに思いました。

何かローカルで見たときの日常性とリージョナルで見たときの独自性みたいなものをどういうふうに両立させていくかという辺りが、今日の皆さんの議論を聞いていて、何か私が1つ今後、新文化会館というのを考えていくときの何かきっかけとかになるのかなというのが今日、2回目になりますけれども、本日の議論に参加をさせていただいて皆さんの発表を聞いて思ったことという形でございます。

私からは以上でございます。

(拍手)

○筒井補佐 ありがとうございます。

委員長をお願いいたします。

○委員長 ありがとうございます。

〇〇学識委員に本当にうまくまとめていただいて、それぞれの班のお話をお聞きしたときにはこれはまとめるの大変だぞとか思っていたんですが、またじっくり噛みしめてみたいと

思います。

本日予定していた議事は以上になるんですけども、委員の皆さん本当に進行に協力いただきまして9時です。ありがとうございました。

引き続き、また次回以降もよろしく願いいたします。

---

閉 会 午後 9時01分